

税制改正大綱にジュニアNISA創設とNISA120万円への引き上げ!
1月から年単位で金融機関の変更が可となり、NISA拡充に期待が
膨らむ中、NISAの2015年分で何に投資する? NISAの2014年分
の投資(投信分)を総括!!

※国際投信投資顧問 投信調査室がお届けする、日本版ISAに関する情報を発信するコラムです。

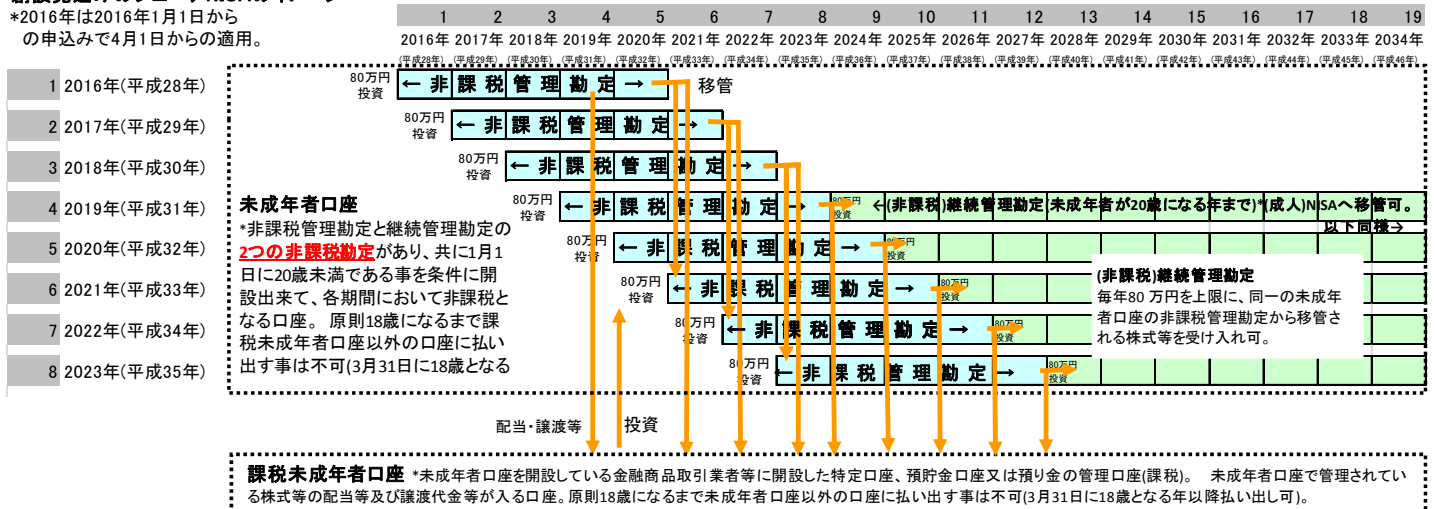
税制改正大綱で2016年よりNISA上限額が年120万円、ジュニアNISA創設へ。

昨年終わり2014年12月30日に2015年度与党税制改正大綱が公表された(URLは後述[参考ホームページ])。

少額投資非課税制度(NISA)関連では金融庁の要望通り、ジュニアNISAの創設(*年間投資上限額80万円、2016年1月1日からの申込みで4月1日からの適用)と、現行(成人)NISAの年間投資上限額120万円への引き上げ(*2016年1月1日からの適用)が含まれた。以上の要望に加えてもう1つの金融庁要望だった「NISAの利便性向上」(*マイナンバーを用いて住民票の写し等の提出を不要とすること)については、2018年1月1日からの適用をめざし検討を行う、となった。下記がイメージだが詳細は次週以降に掲載。

創設見込みのジュニアNISAのイメージ

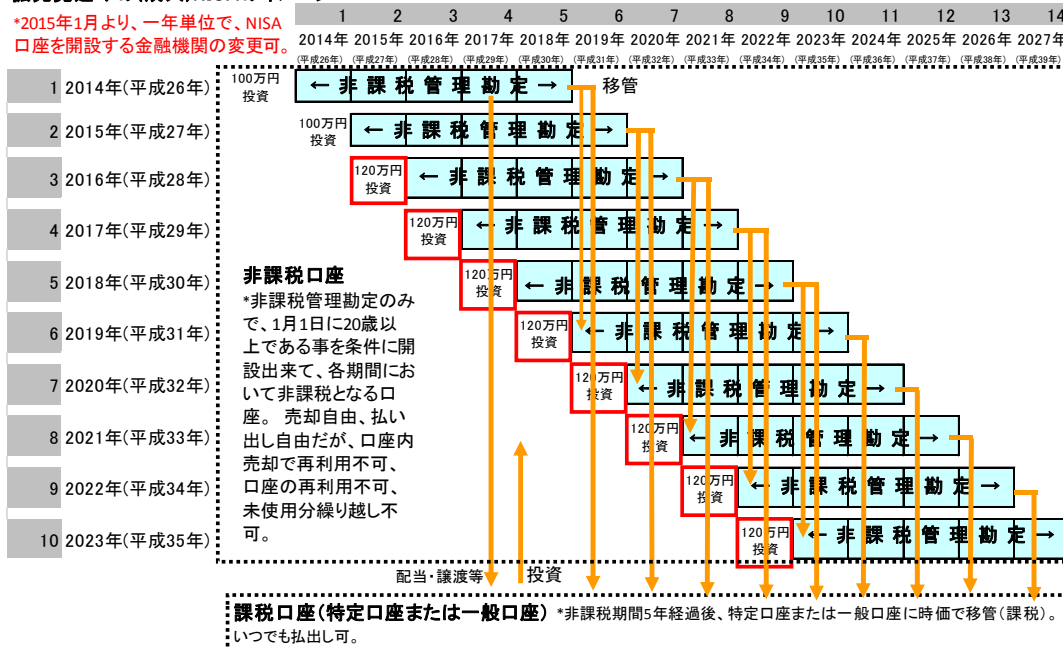
*2016年は2016年1月1日からの申込みで4月1日からの適用。



(出所:与党税制改正大綱より国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成) *現時点での投信調査室の解釈なので今後変わります。

拡充見込みの(成人)NISAのイメージ

*2015年1月より、一年単位で、NISA口座を開設する金融機関の変更可。



(出所:与党税制改正大綱より国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

与党税制改正大綱は、基本的に以上の中身で税制改正関連法案としての成立を待つ。通常なら今年度末(3月31日)までに予算案と一括採決、成立するが(2014年12月15日付日本版ISAその84~URLは後述[参考ホームページ])が、昨年12月14日の衆院選で予算案編成作業が遅れており、もし国会が紛糾する様な事があれば、3月末までの成立は難しい。与党は衆院で3分の2超の議席を持つので、予算案はもちろん、関連法案(税制改正関連法案等)も可決出来るものの、4月12日の統一地方選(前半)を前に採決強行を避けたく、そこで暫定予算を組んで4月10日(金)までの成立を目指す方針と言う(1月11日付朝日新聞)。

尚、税制改正大綱については2015年1月7日に投資信託協会が分かりやすく解説しているほか、120万円への引き上げ及びジュニアNISAについては2014年9月1日付日本版ISAの道その69と2014年11月4日付日本版ISAの道その78で、個人型確定拠出年金制度については2014年6月23日付日本版ISAの道その60で書いているので参照のこと(後述URL[参考ホームページ])。

2015年1月より金融機関の変更が1年単位で可能となる中、何に投資すれば良いか

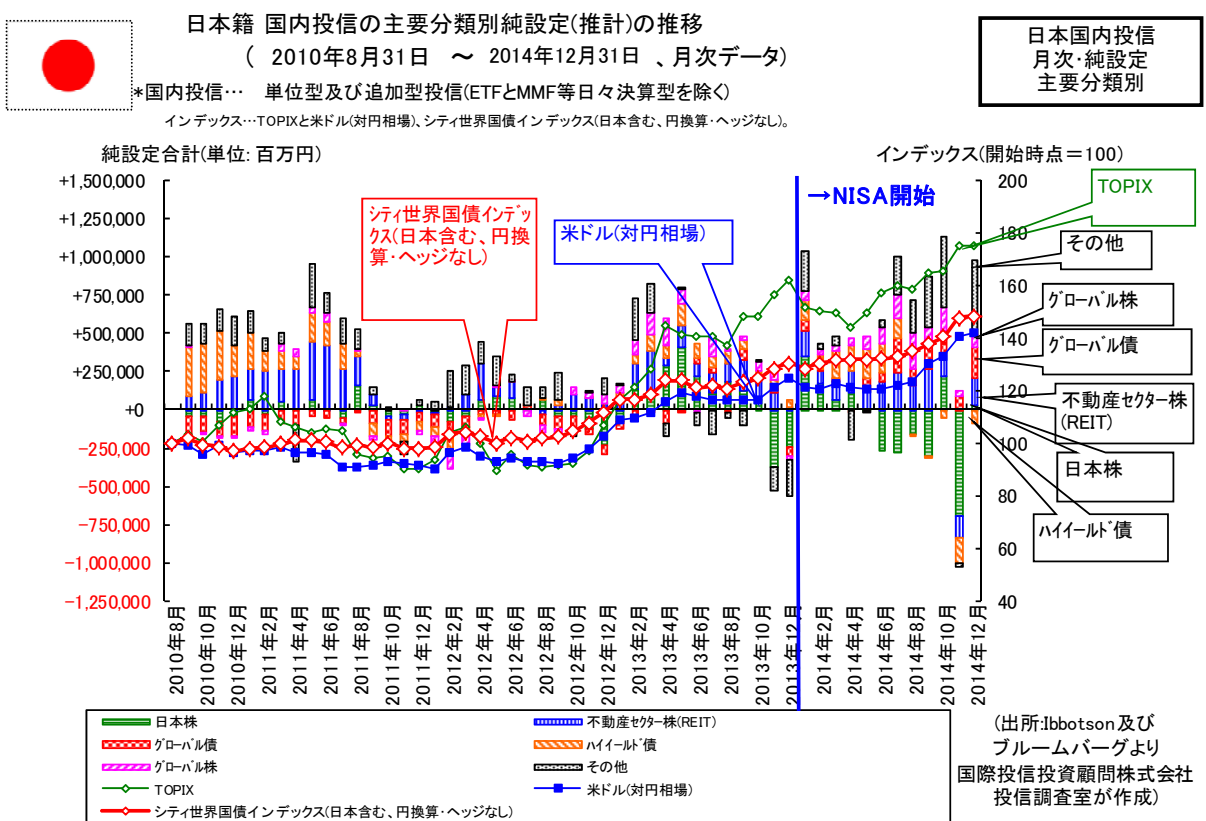
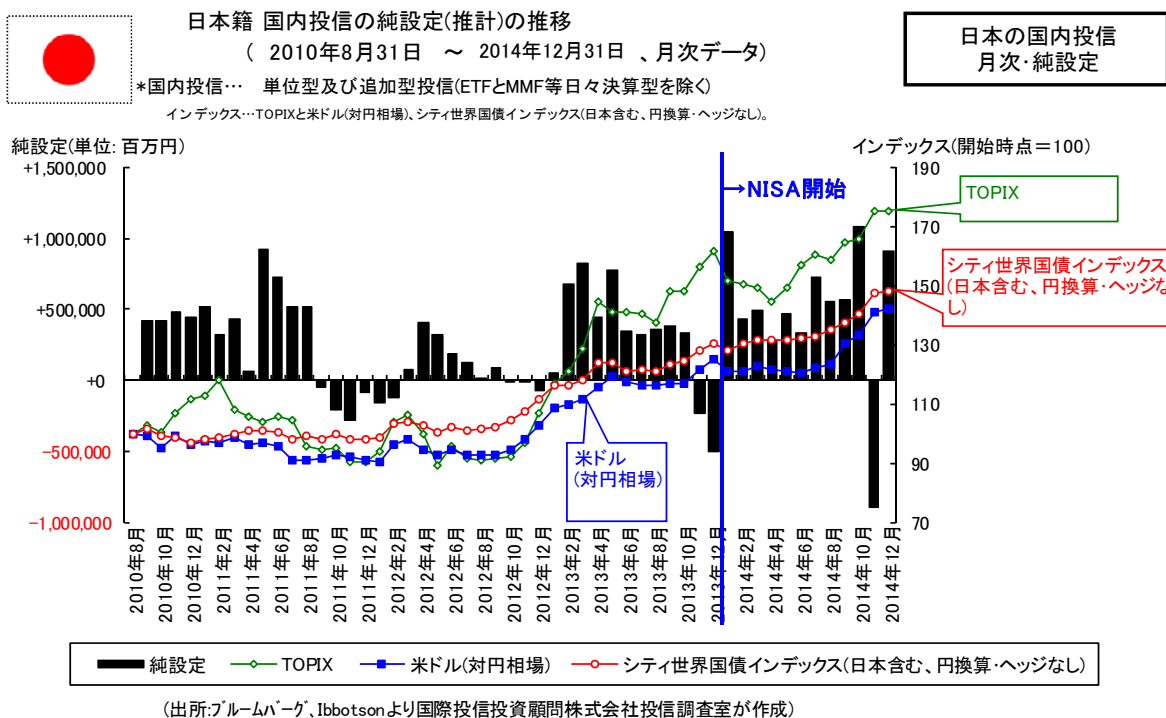
2016年にはジュニアNISA導入など、一層の拡充に期待が膨らむ中、NISAの2015年分では何に投資すれば良いか? 2015年1月より、これまでNISA口座を開設してから4年間不可だった金融機関の変更が1年単位で出来る様にもなり利便性が改善している(詳細は金融庁のHP~後述URL[参考ホームページ])。2014年分に続き2015年分でも投資をする人はもちろん、2014年分では見送って投資をしなかった人にとっても重要な問題だ。こうした際に参考となるのが、NISAの2014年分で実際どの様な投資対象が選ばれてきたかを見ること。今回は、NISAの2014年分の投資(投信分)を総括する。

既存投資家の人気はREIT、グローバル債・株ファンド

NISAのファンド動向を見るにあたって、投資家を、既存投資家と投資の未経験者層(新規投資家)とに分ける。前者の既存投資家はNISAで実際に投資をしている投資家の大半を占めているとされるが、それを投信全体の動向で代替し、後者の新規投資家はNISA向けファンド(後述※参照)で代替する事とする。

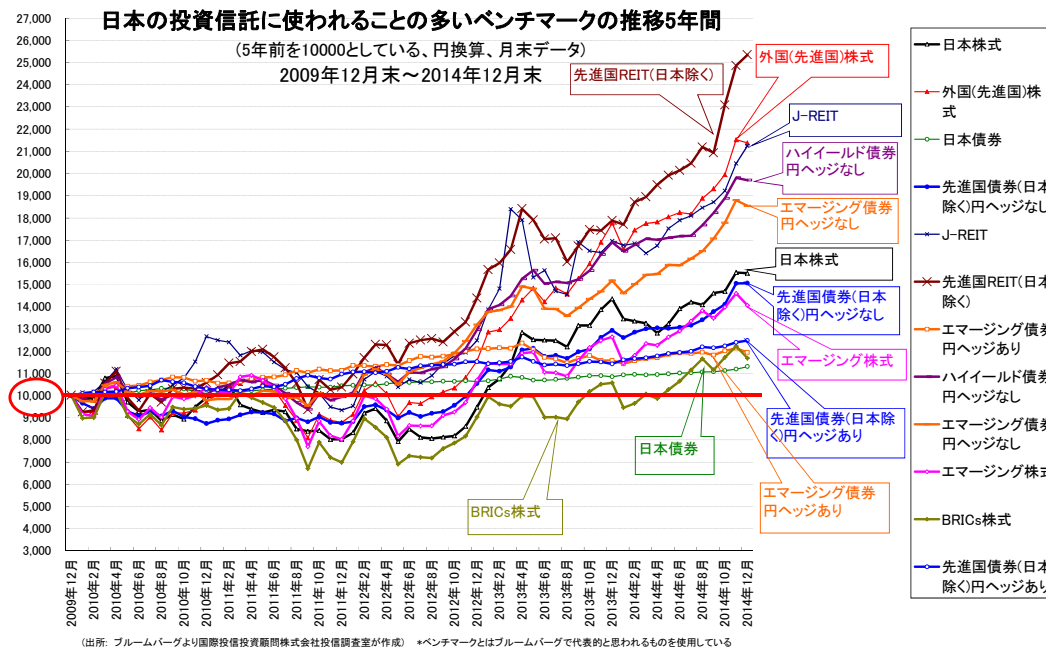
まず前者の既存投資家であるが、投信全体の純設定(推計)を見ると、2014年12月は+9104億円と、2014年では1月、10月に次ぐ3番目の大きな純流入だった。前月11月は11カ月ぶりに純流出で、その背景は「10月の日銀の金融緩和で相場が大幅に上昇し、利益確定のための投資信託の解約要請が相次いだ。」(2015年1月1日付日本経済新聞電子版~後述URL[参考ホームページ])とされるが、この11月とほぼ同じ規模の資金が12月に純流入となった。2014年の1年間では約6兆円が日本の投信に純流入したこととなる(ちなみに上場投信であるETFの純設定を加えると年間の純流入額は約7兆円弱に達する)。

この既存投資家の純設定を、投資対象(主要分類)別で見る。モーニングスター分類を用いて2014年12月末の純資産の大きい上位5分類を主要分類としてみたのが次頁グラフである。最新12月はグローバル債が最も大きな純流入で、不動産セクター株(REIT)、米国大型株ブレンド株がそれに次ぎ、日本債、グローバル株などに資金が集まっている(*米国大型ブレンド株、日本債は下記グラフでは「その他」に含まれる)。不動産セクター株(REIT)の大きな純流入は、2014年を通して人気の継続したREITファンドによるもので、純流入額は年間で約1.7兆円となった(全31分類中最大)。次いで2014年に1兆円を超える純流入となったグローバル債やグローバル株は2014年後半にかけて純流入が大きくなっている。一方、2014年前半までREITファンドと並びNISAで人気の続いていたハイイールド債は8月以降純流出が継続中である。



「運用した商品は今年も『日本株』(69%)がトップで、2位が『預貯金』(35%)、3位は『日本株投信』(21%)だった。」
 (2014年12月31日付日本経済新聞の日経生活モニターへ登録した読者アンケート調査～URLは後述[参考ホームページ])とされた日本株だが、日本株のファンドは、昨年2013年末には軽減税率終了前の駆け込みで大きな純流出となり、2014年も11月に前述した背景から7000億円近くの大規模な純流出となったが、12月については380億円の純流入となっている。日本株(ファンド)は人気はあるが、短期の逆張り売買が多い様だ。

グローバル債/株や米国大型ブレンド株、不動産セクター株(REIT)に資金が集まる理由だが、パフォーマンスが好調だった事がありそうだ。投信に使われることの多いベンチマークを見たのが下記グラフだ。パフォーマンスの好い順に、先進国 REIT、先進国株式、国内不動産 REIT、ハイイールド債券、エマージング債券などとなっている(*5年前を10000としている、円換算、月末データ)。



新規投資家の人気は米国株・アロケーション柔軟型・グローバル債ファンド

次に新規投資家であるが、NISA 向けファンド(後述※2 参照)の純設定を見ると、最新 2014 年 12 月に+2413 億円と、NISA 投資開始 2014 年 1 月からで 3 月に次ぐ 2 番目に大きな資金純流入となった。

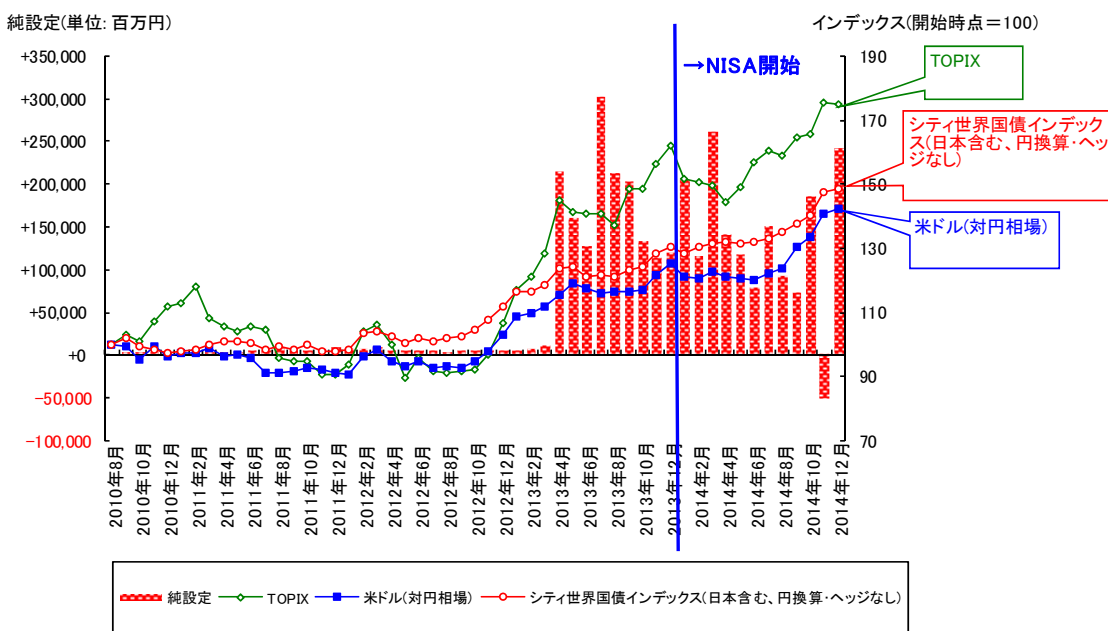


日本の NISA向けファンドの純設定(推計)の推移
 (2010年8月31日 ~ 2014年12月31日、月次データ)

*NISA向けファンド... 2014/12/31 現在755本ある現存ファンドについて。

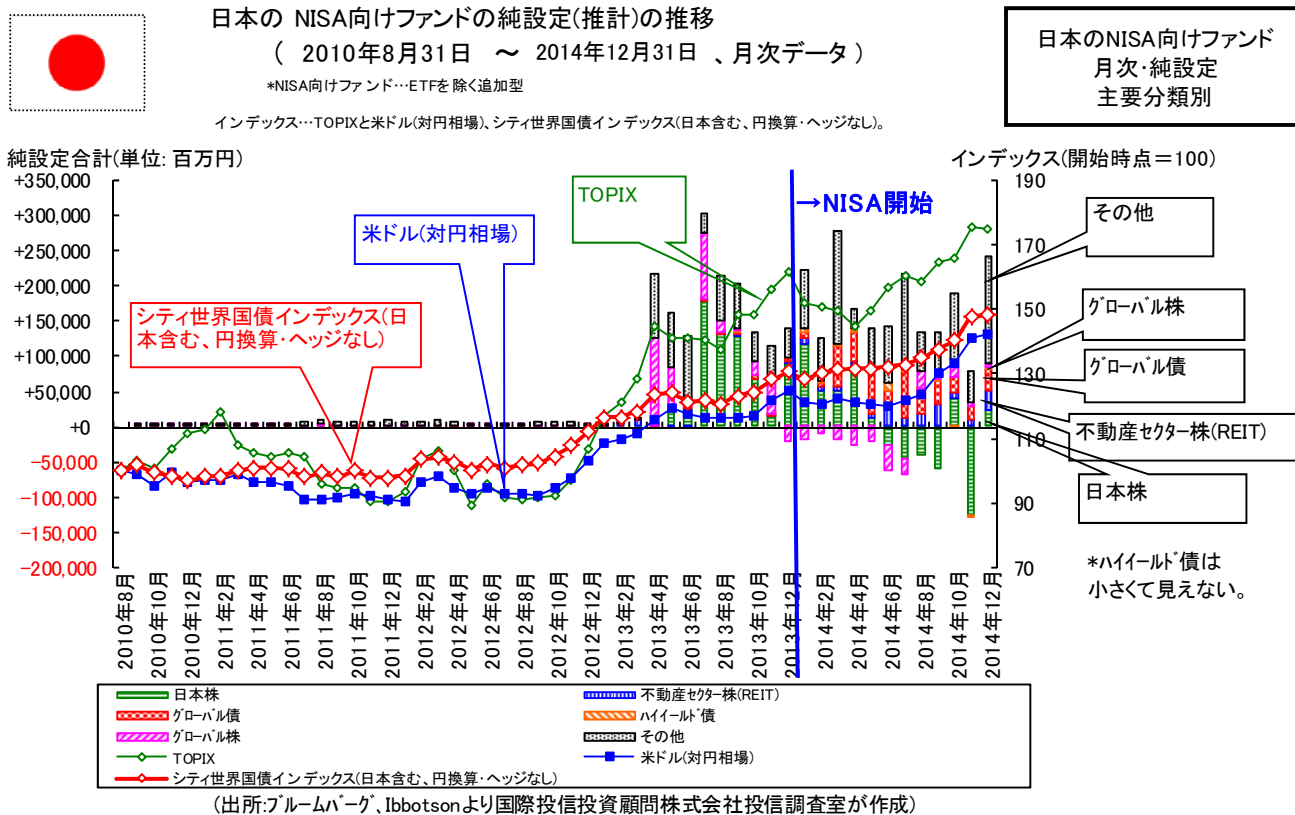
インデックス...TOPIXと米ドル(対円相場)、シティ世界国債インデックス(日本含む、円換算・ヘッジなし)。

日本のNISA向けファンド
 月次・純設定



(出所:ブルームバーグ、Ibbotsonより国際投信投資顧問株式会社投信調査室が作成)

この新規投資家と思われる投信の12月の純設定を、投資対象(主要分類)別に見る。純流入1位は米国大型ブレンド株(2014年の年間3位)、2位はアセットアロケーション柔軟型(同1位)、3位はグローバル債(同2位)、4位は不動産セクター株(REIT)(同4位)、5位は日本株(同7位)となっている。前述した既存投資家と思われる国内投信全体での主要分類を用いて、同様に純設定の推移を示したのが下記グラフである。米国大型ブレンド株やアセットアロケーション柔軟型は下記グラフでは「その他」に含まれる。2014年に大きな純流入で始まり、既存投資家(投信全体)と同様、11月にNISA投資開始以来で最大の純流出となった日本株ファンドだが、夏以降は純流出の続くことが多かったが、12月は純流入となった。一方で、アセットアロケーション柔軟型やグローバル債ファンドは、2014年を通じて安定的な資金純流入だった。足元では、米国株ファンド(米国大型ブレンド株)への純流入が増えている。新規投資家では、現在、米国大型ブレンド株やアセットアロケーション柔軟型、グローバル債ファンドが人気のようにみえる。



※「NISA向けファンド」…投資信託協会の言う「NISA向けのファンド(*分配頻度が低いファンド、低コストのファンド、バランス型ファンド)」を参考にしながら(URLは後述[参考ホームページ])、2013年11月末時点の契約型公募投信純資産が1兆円以上ある投信会社17社(*全84社の約90%を占める)の株式投信(ETFを含む)で「NISA向け」、「NISA専用」、「NISAで選ぶ」、「NISAにおすすめ」などと紹介されているファンド、それに加え、2013年4月以降に設定された分配頻度が低いファンドやバランス型ファンドとしている。なお、2013年4月以降と言うのは、NISAが含まれる税制改正(関連法が2013年3月30日に成立・政省令公布されたため。尚、単位型・限定追加型・年1~2回分配以外のファンド・DC・SMA・ミリオン(従業員積立投資プラン)を含めていない。ただ、同じシリーズが該当している場合は年1~2回以外を含めている。しかし、通貨選択型については、年1~2回以外を除いている(*マネー・プールは年1~2回でも除いている)。こうした「NISA向けファンド」を抽出した所、2014年12月30日時点で755本となった。

ネット証券会社における実際の人気は REIT と日本株ファンド

ここで、金融機関各社が発表する実際の投資動向もあわせて見る。2015年1月7日現在で、各社HP(口座保有者限定の閲覧サイトは除く)に公表されている最新 NISA・投資信託動向だが、ランキングを掲載しているところは、ネット証券会社が多かった。ランキングの集計時期や方法は証券会社により異なるが、ここでは、どのような投資対象なのか傾向を見るため、ネット証券各社がHPで公表する最新の内容を参考まで紹介する。個別ファンド含む詳細については後述 URL[参考ホームページ]ご参照。また、1カ月前の状況については、2014年12月8日付日本版ISA その83を参照(後述 URL[参考ホームページ])。

○マネックス証券では12月のNISA口座における売れ筋ファンド(販売額)のベスト10を発表しており、1・4位は不動産セクター(REIT)ファンド、2・5位日本株ファンド、3位グローバル株ファンドとなっている。前月1・3・5位は不動産セクター(REIT)ファンド、2位グローバル株ファンド、4位日本株ファンドだった。

○最大手であるSBI証券は週間のランキングを発表しており、最新週12月29日から2015年1月2日までの取引をもとにしたNISAの投資信託・買付金額の1・3・5位は不動産セクター(REIT)ファンド、2位は日本株ファンド、4位アセットアロケーション積極型となっている。約1カ月前の11月24日から28日までの1・5位は不動産セクター(REIT)ファンド、2位アセットアロケーション積極型、3位は日本株ファンド、4位グローバル株ファンドだった。

○楽天証券も週間ランキングを発表しており、12月29日から2015年1月2日までのNISA投資信託・買付金額の1・2・4・5位は不動産セクター(REIT)ファンド、3位は日本株ファンドとなっている。約1カ月前の11月24日から28日は1・2・5位は不動産セクター(REIT)ファンド、3位は日本株ファンド、4位はグローバル株ファンドだった。

12月は前月11月に比べてREITファンドと日本株ファンドへの人気が集積してきているように見える。ちなみに先述した既存投資家(投信全体)や新規投資家(NISA向け)において、日本株の純設定は2014年11月に大きなマイナス(純流出)で、12月に小さなプラス(純流入)だったが、異なる結果にみえる。これは、純設定額には、投信の解約や償還分をいれている(差し引いている)からで、販売会社が公表するNISA口座での売れ筋ファンドは、買付金額のみの集計であるためである。NISA口座を通じた日本株ファンド投資では、2014年においては、値上がりしたところで購入から1年以内に解約、利食いする傾向がうかがえた。

買付ランキングを一般のHPに公表している金融機関は少ないため、年初から12月末にかけての買付に値上がり・値下がりを加えたNISA口座・保有残高ランキングを発表しているネット証券会社も参考として見る。

○最大手であるSBI証券のNISAランキング・投資信託では、NISA導入から1年後の2015年1月2日現在、1~3位不動産セクター(REIT)ファンド、4位日本株ファンド、5位アセットアロケーション積極型となっている(前月と同じ)。

○楽天証券のNISAランキング・投資信託では2015年1月7日現在、1~3・5位不動産セクター(REIT)ファンド、4位グローバル株ファンドとなっている。約1カ月前の12月5日現在は、1・2・4・5位不動産セクター(REIT)ファンド、3位日本株ファンドだった。

ここでNISA投資家の特徴として、「NISA口座開設者の75.2%が50歳以上で、60歳以上でも58.4%と、その多くは『資産を安定的に運用したい』と考える、比較的年齢層が高い投資家が多いのだ。」(2014年12月30日付ザイ・オンライン~後述 URL[参考ホームページ])とある様に、実際のNISA口座での売れ筋ファンドは、年齢層の高い投資家の傾向が反映されやすく、若い投資家層では投資金額も小口となり、人気は異なるという見方もあるかもしれない。

NISA 口座での 2014 年における年代別の実際の売れ筋ファンドの情報は入手が難しいなか、カブドットコム証券では最新 11 月の月間統計になるが、世代別の売れ筋ランキングを掲載している。それは、20・30 代と 40・50 代と 60 代以上とに分けているが、そのいずれも NISA 口座での買付額 1・2 位は「リート」ファンド、3 位が「バランス」ファンドだった。

既存投資家と新規投資家の両方で見られたように、さらにネット証券会社における実際の売れ筋投信から見ても、2014 年は REIT ファンドの人気の継続。値上がり期待の日本株ファンドの人気の見られた。次いで、米国株やアロケーション型、グローバル株・債ファンドへの人気の見られた。以上、NISA における投資信託の最新動向だった。

2015 年 1 月 5 日(月)に、東京証券取引所で開催された大発会に 2 年連続で出席した、麻生太郎副総理・財務・金融相が「デフレによる不況から脱しつつあることは株式市場の堅調さからも示されている。経済の好循環をさらに加速するために、NISA (少額投資非課税制度)などを拡充していく」(2015 年 1 月 5 日付朝日新聞～後述 URL[参考ホームページ])と述べるなど、拡大を強く期待される NISA について、引き続きデータや報道、各社ホームページ等をしっかり見て動向を判断していきたい。

[参考ホームページ]

平成 27 年度(2015 年度)与党税制改正大綱…「 http://jimin.ncss.nifty.com/pdf/news/policy/126806_1.pdf 」、
平成 27 年度(2015 年度)税制改正要望…

「 http://www.mof.go.jp/tax_policy/tax_reform/outline/fy2015/request/index.htm 」、

2014 年 12 月 15 日付日本版 ISA その 84「総選挙で与党が圧勝! 12 月 30 日にも決定する税制改正大綱や NISA 投資の年内最終発注日、そして、これまでの総選挙前後の株や為替の動向をデータで確認」…「 <http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/141215.pdf> 」、

金融庁「NISA 口座開設金融機関の年単位の変更が可能になります」…「<http://www.fsa.go.jp/policy/nisa/03.pdf>」、
2014 年 1 月 8 日および 2015 年 1 月 7 日付投信協会メールマガジン「NISA 向けのファンドって?」、「平成 27 年度税制改正大綱が公表されました」…「 <http://www.toushin.or.jp/mailmag/> 」、

2014 年 9 月 1 日付日本版 ISA その 69「金融庁の平成 27 年度税制改正要望で子ども版 NISA/ジュニア NISA(日本版ジュニア ISA)！～日英米の子どもの将来に備えた資産形成制度と人口動態比較付～」…
「 <http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140901.pdf> 」、

2014 年 11 月 4 日付日本版 ISA の道 その 78「ジュニア NISA vs こども(学資)保険!ジュニア NISA vs 英国ジュニア ISA・米国 529 プラン!!」…「 <http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/141104.pdf> 」、

2014 年 6 月 23 日付日本版 ISA その 60「日本版 401k の非課税枠拡大!(日本版 IRA と NISA に期待)～米国 401k(と 529)と日米確定拠出年金(DC)ファンドの最新動向～」…「 <http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/140623.pdf> 」、

2015 年 1 月 1 日付日本経済新聞電子版「どうなる今年の株式市場 取材記者のこぼれ話」…

「 http://www.nikkei.com/my/print-article/?R_FLG=0&bf=0&ng=DGXMZO81312310V21C14A2000000 」、

2014 年 12 月 8 日付日本版 ISA の道 その 83「NISA 元年も残り 1 カ月を切る中、NISA で何に投資する? 先月人気だったのは既存投資家がグローバル債、新規投資家がアセットアロケーション柔軟型やグローバル債、ネット証券で REIT と日本株とグローバル株!!」…「 <http://www.kokusai-am.co.jp/news/jisa/pdf/141208.pdf> 」、

マネックス証券の NISA 月間売れ筋ランキング・投資信託・販売金額…

「 <https://fund.monex.co.jp/rankinglist#NisaMonthlySales> 」、
SBI証券のNISA ランキング・投資信託・保有残高…「 <https://www.sbisecc.co.jp/> 」、
楽天証券のNISA ランキング・投資信託・残高…「 <https://www.rakuten-sec.co.jp/nisa/> 」
カブドットコム証券 11 月月間のNISA 口座買付・投信/世代別ランキング…
「 http://kabu.com/item/nisa/ranking/fund_generation.html#anc04 」
NISA 口座の人気銘柄は、実はNISA 向きじゃない!?株&投資信託の「保有残高ランキング」から考える2015年の
NISA 口座用おすすめ銘柄の選び方!…「 <http://diamond.jp/articles/-/64483> 」、
2015年1月5日付朝日新聞「東証で大発会「辛抱」の未年、売り買い交錯の幕開け」…
「 <http://www.asahi.com/articles/ASH152SPTH15ULFA001.html> 」。

新春

皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします
本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます
平成二十七年 元旦



以上
(投信調査室 松尾、窪田)

本資料に関してご留意頂きたい事項

本資料は日本版ISA(少額投資非課税制度、愛称「NISA/ニーサ」)に関する考え方や情報提供を目的として、国際投信投資顧問が作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。なお、以下の点にもご留意ください。

- 本資料中のグラフ・数値等はあくまでも過去のデータであり、将来の経済、市況、その他の投資環境に係る動向等を保証するものではありません。
- 本資料の内容は作成基準日のものであり、将来予告なく変更されることがあります。
- 本資料は信頼できると判断した情報等をもとに作成しておりますが、その正確性、完全性等を保証するものではありません。
- 本資料に示す意見等は、特に断りのない限り本資料作成日現在の国際投信投資顧問 投信調査室の見解です。

本資料中で使用している指数について

- ・東証株価指数(TOPIX)は、(株)東京証券取引所及びそのグループ会社(以下、「東証等」という。)の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用など同指数に関するすべての権利・ノウハウは東証等が所有しています。
- ・シティ世界国債インデックスは、Citigroup Index LLCにより開発、算出および公表されている債券インデックスです。